

首都大学東京・東京慈恵会医科大学・共立薬科大学

連携教育 (IPE) 国際カンファランス 2007 in Tokyo の開催

医療安全教育におけるインタープロフェSSIONAL教育<IPE>

インタープロフェSSIONALワーク<IPW>の役割と使命

～ 英国大学における IPE の現状～臨床と教育のコラボレーション～

首都大学東京は、昨年 12 月に東京慈恵会医科大学及び共立薬科大学とチーム医療教育や医療安全教育の推進を目的とする教育・研究交流協定を締結しました。このたび、この協定に基づき、首都大学東京の主催により、両大学と合同で連携教育 (IPE) 国際カンファランスを開催いたします。これは、保健・医療・福祉に携わる方を対象に、医師、コメディカル等の多職種間の連携教育 (IPE) への理解を深めるとともに、現在の医療の重要なテーマである「チーム医療」を各医療施設に円滑に導入して頂くことを目的に開催する会議です。

日 時：2007 年 7 月 7 日 (土) 午前 10:00 から午後 5:30 まで

場 所：東京都庁 (第一本庁舎) 5 階大会議場

定 員：500 名

参加費：無 料 (通訳付)

対 象：保健・医療・福祉系大学の教職員、臨床・地域現職者 (東京都関連病院、一般病院、福祉施設職員)、行政職、その他

カンファランスの内容

1. 大会長挨拶 西澤 潤一 (首都大学東京学長) 10:00～
2. 基調講演「インタープロフェSSIONAL教育とは何か-英国の背景-」 10:10～
ピーター・マクロリー (ロンドン・セントジョージズ大学教授)
3. 「ロンドン・セントジョージズ大学における
インタープロフェSSIONAL教育」 11:20～
スーザン・E・ストロング (ロンドン・セントジョージズ大学上級講師)
－ 休憩 (12:30～) －
4. 「サウサンプトン大学におけるニュージェネレーションプロジェクト」 14:00～
パメラ・ジャクソン (サウサンプトン大学上級講師)
－ 休憩 (15:10～) －
5. シンポジウム「医療安全教育における IPE と IPW～臨床のコラボレーション」 15:40～
 - (1) 臨床 (大学病院) の立場から：前田 平生 (埼玉医科大学総合医療センター教授)
 - (2) 医学部教育の立場から：福島 統 (東京慈恵会医科大学教授)
 - (3) 薬学部教育の立場から：福島 紀子 (共立薬科大学教授)

申込方法 : FAX (03-3819-1406) または E-mail (ipe2007tokyo@mac.com) で、最初に「IPE 参加希望」と記入のうえ、氏名・所属/住所・電話番号・E-mail アドレス・懇親会参加の有無を記入して連絡ください。

問い合わせ先

首都大学東京 健康福祉学部

電話 03-3819-1404



インタープロフェッショナル教育（IPE）と インタープロフェッショナル・ワーク（IPW）について

○ 保健・医療・福祉教育を改革する新しい概念

これまで、我国の保健医療福祉領域の専門職教育は、各専門職固有の歴史、文化、制度の違いなどにより、極端な縦割りシステムの中で行われ、横の繋がり、いわゆる「**専門職の連携**」については卒業後の職場における新卒教育などに委ねられてきました。しかし、臨床の（または地域の福祉）現場などでは、個別の専門教育は行われてきましたが、「**連携のための教育**」を実施する機会はほとんどなく、過度の専門分化の弊害が現れてきたと言っても過言ではありません。

複数の専門職間における連携能力を学生のうちに強化し、卒業時には**実践力とコミュニケーション能力**を備えた人材を育成するため、最近英国で始まったのが**インタープロフェッショナル教育（IPE）**いわゆる**連携教育**です。保健医療福祉専門領域の教育においてIPEは、これまでの教育課程に大きな変化をもたらし、連携による患者中心の医療の実現や医療事故の防止に役立ちます。

○インタープロフェッショナル（IP:Inter-professional）とは？

インタープロフェッショナル（IP）は、実際に病院などの職場で「**保健医療福祉サービスを提供するシステムの中で、効果的で効率的かつ経済効果にも優れた質の高いサービスを実践していくためのアプローチ**」概念と理論です。

○インタープロフェッショナル・ワーク（IPW:Inter-professional Work）とは？

インタープロフェッショナル（IP）の概念と理論を実際に病院などで実践するための形態が**専門職による連携協働（IPW）**です。

○インタープロフェッショナル教育（IPE:Inter-professional Education）とは？

複数の保健医療福祉専門職種による連携教育とは「**複数の領域の専門職者がお互いの連携およびケアサービスの質を改善するために、同じ場所で共に学び、お互いから学び合いながら、互いの専門性を知る**」ことを意味します。つまり、専門職による**連携協働（IPW）**を実践するための教育方法を**インタープロフェッショナル教育（IPE）**といい、我国ではほとんど行われていません。

○現場の連携協働（IPW）と連携教育（IPE）との一体関係について

IPWは、多専門職種間でどのくらい突っ込んだ話し合いができるのか、どのようにして効果的な実践活動が成立するのか、現実的かつ合理的な探求を行います。そのための教育がIPEであり、**連携教育（IPE）と連携協働（IPW）**は一つの対を成しています。複数専門職学生間どうしの相互学習（IPE）と現職者間での**連携労働（IPW）**における“相互作用”が有益な刺激をもたらすのです。

例として、ある複数の専門職学生グループが、病院に実習に行き、一人の症例を担当したとします。これだけでも病院にとっては大変な事態になります。なぜなら、そういったグループを指導する“ノウハウ”や肝心の指導者が存在しません。また、学生達は、純粹に“患者側の立場”に立ちますが、その観点から病院のサービス、システムの評価などを行うことは、おそらく病院側にとって耳の痛い事も多いかもしれません。そういった実習を広く受け入れるため、英国では職員を大学に派遣したり、大学の教員が病院を訪問して打合せを行ったりしています。我国では、そういった実習形態はこれまでほとんど存在していませんでした。

○英国で連携教育（IPE）が推進された理由

英国における IPE の起源は 1970 年代頃とされていますが、その背景には政府の政策、現場のニーズ、世論を喚起するいくつかの事件など複数の要因が存在します。しかし、最も前向きな前提条件として「必要な改革を必要に応じて論理的かつ合理的に実施できる文化（国民性と呼ぶべき）」があげられます。我国では何か重大な医療過誤事件が起こるたびに、個人または、事件の該当施設の個人的な原因に帰されてしまう場合が多く、英国ではそれを「専門職種間の連携ミス」「連携の不足」といった全体のシステム、教育の問題として捉える点にあるからです。

英国の保健医療福祉教育では、連携のためのシステムの必要性を共通課題として、また、そのために必要な技術と理論を構築することを念頭に、複数の大学間連携によってカリキュラム体系の構築や教育方法を競い合っています。現行の保健医療福祉教育カリキュラムの基本には「真の専門職とは他の専門職と連携できる能力を含むものをいう」「ヘルスプロモーションは全ての保健医療福祉専門職の仕事であり、ある特定分野だけのものではない」「大学教育において、保健医療福祉の専門資格は一つの通過点であり、学究的なヘルスプロモーションが高次の目標となる」といった概念が根底にあり、NHS（National Health Services、1946 年制度化）トラストとよばれる公的保険制度の組織と一体となり、教育と現職者のいる病院、地域ケアの現場での改革を推進しています。

過去 8 年間に英国政府は、連携教育（IPE）を保健医療福祉改革のための緊急政策課題としたことにより、この期間に連携教育（IPE）は連携協働（IPW）を改善・推進する手段として広く認識されるようになりました。2005 年まで、連携教育（IPE）を専門教育に必要な構成要素として承認する職業団体や管理監督機関が増加しました。その根拠として、連携教育（IPE）を保健医療福祉の専門職教育課程に組み入れようとする大学数が急速に伸びている現状があります。